道づくりだより

第 68 号　2013.10　島根県道づくり調整会議

国道 54 号のサイクリングロード計画策定に向けた試走会

-Contents-

1.（主）仁摩邑南線（大原工区）のバイパス区間の供用開始（道路建設課）

2. 国道 54 号のサイクリングロード計画策定に向けた試走会を実施しました！（高速道路推進課）

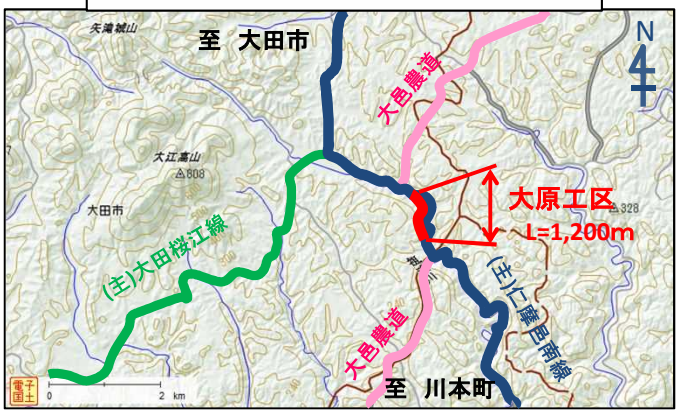
3. 道路橋の長寿命化に関する市町村の取り組み状況（道路維持課）

4. 山のみち地域づくり計画における林道「笹山山入線」の状況（森林整備課）

（主）仁摩邑南線（大原工区）のバイパス区間の供用開始

大田市祖式町大原地内のバイパス区間（延長７７０ｍ）を平成２５年９月５日に供用開始しました。

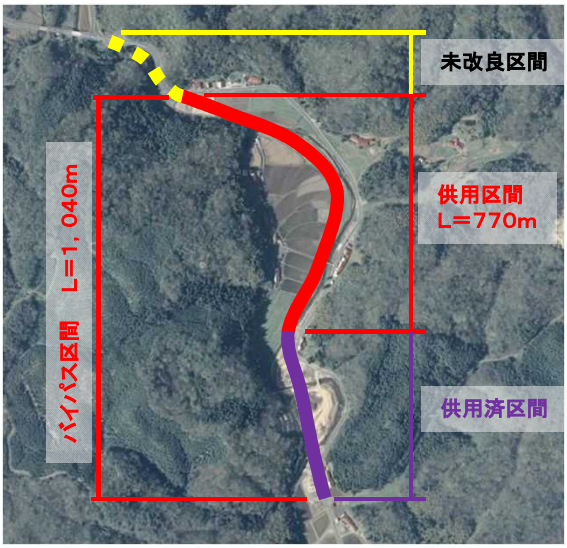
（主)仁摩邑南線(大原工区)位置図



○　大原工区について　○

（主)仁摩邑南線は、大田市仁摩町の国道9号を起点とし、邑智郡邑南町に至る幹線道路です。また、世界遺産「石見銀山遺跡」へのアクセス道としても位置付けらている重要な路線です。

当工区は現道の線形が悪く、かつ視距も少ないため、大型車両の離合が困難でした。このため、バイパスを新設し、安全でかつ円滑な車両通行が可能となるよう整備を行っており、平成28年度の全線供用を目指しています。



○　事業概要　○

工区延長	：	1，200m
事業区間	：	大田市祖式町大原地内
事業期間	：	平成21年度～平成28年度(予定)
道路規格	：	3種3級
設計速度	：	40km/h
道路幅員	：	車道 3.0×2　路肩 0.75×2
主要構造物	：	新大原橋 宮風呂橋 宮ノ前橋 下郷橋
総事業費	：	約11億円

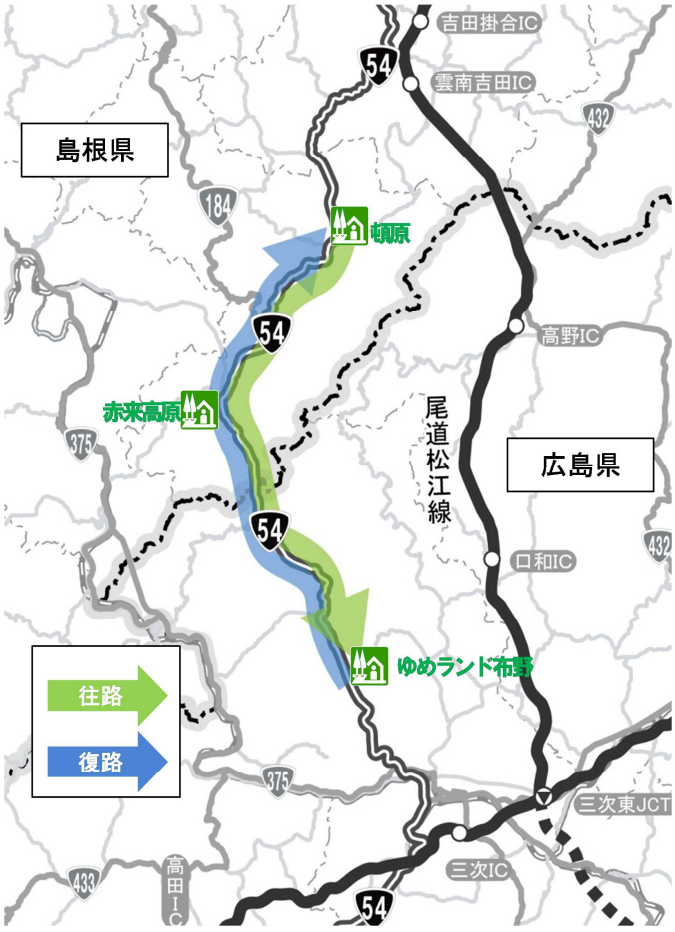
【完成写真】

国道５４号のサイクリングロード計画策定に向けた試走会を実施しました！

高速道路推進課

平成２５年９月２９日（日）に国道５４号にて、サイクリストによる試走会を実施しました。この試走会は、松江自動車道の全線開通に伴う、国道５４号沿線の地域活性化策の一貫として開催したものです。コースは、国道５４号の道の駅「頓原」から道の駅「ゆめランド布野」を往復する約６５ｋｍのロングライドです。

参加者は、島根県内外の１２～５２歳の男女２２名で、５時間余りをかけて路面の状況などを確認し、緑豊かな風景を楽しみながら完走しました。



今後は試走会で頂いたご意見を参考に、国交省、県、沿線市町等により安全で快適なサイクリングロードの整備計画策定に向けた検討を進めます。

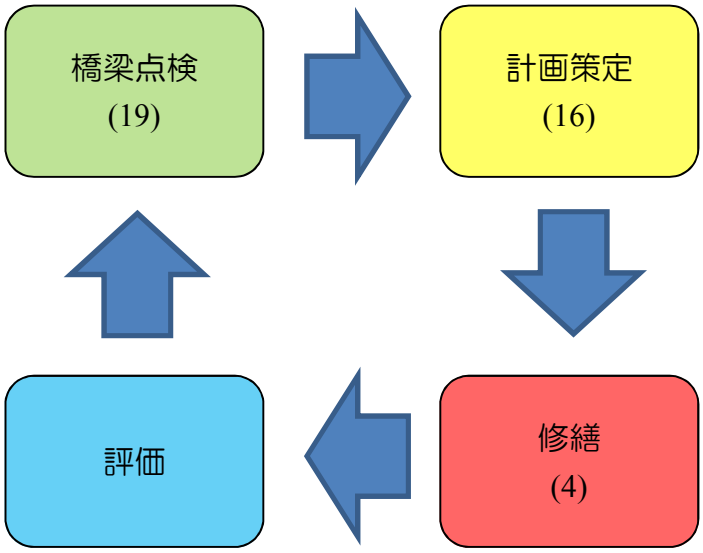
道路橋の長寿命化に関する市町村の取り組み状況

橋梁長寿命化修繕計画

今後、架設から 50 年を経過する高齢化橋梁の増大に伴い、緊急な修繕を要する橋梁が年間に多数生じる恐れがあります。そのため、単年度で膨大な修繕費が予想され、全ての橋梁の修繕に対応できなくなることが考えられます。

このような背景から、橋梁長寿命化修繕計画(以下、修繕計画)は、修繕コストの平準化･縮減を図るため、従来の損傷後の修繕といった事後保全的な対応から計画的かつ予防的な対応に転換するものになっています。

島根県は、平成 19 年度から平成 23 年度にかけて、木橋を除く全管理橋梁(2m 以上)の修繕計画を策定しています。県内の市町村でも、平成 22 年度から順次計画を策定し、平成 25 年 10 月末で 16 市町村が策定しています。



県内 19 市町村の実施状況（実施市町村数）

橋梁点検(定期点検)

【原則、5年に1回実施】

橋梁点検(定期点検)は、橋梁の異常や損傷を早期に発見し、これらに必要な措置を講ずることや、損傷を生ずべき誘因を除去する予防保全を行うとともに、一般交通の安全及び第三者への被害の防止を図ることを目的としています。

点検結果等で得られた情報をデータベース化することにより、効率的な維持管理を行うことができ、修繕計画の策定にも寄与します。

県内の全 19 市町村は、順次点検した結果を「島根県橋梁アセットマネジメントシステム※(以下、AMS)」に登録し、橋梁データの蓄積･管理を行っています。

AMS には解析･計画検討システムがあり、点検結果に基づき、健全度評価、劣化予測及びライフサイクルコスト(修繕費)の算出等を行い、AMS を利用して修繕計画を策定しています。

システム画面

市町村の維持管理業務に携わる職員を対象とした橋梁点検講習会を毎年 2～3 回程度実施し、橋梁の維持管理に必要な知識の習得の向上を図っています。

修繕

現在、修繕計画に基づく橋梁修繕を県内 4 市町村が実施しています。

今後、計画的な修繕等を順次行い、橋梁の長寿命化を図っていきます。

メインケーブルが損傷した橋梁(修繕予定橋梁)

今後の取り組み

鉄道跨線橋は、鉄道事業者への手続き等で早急な敷地内点検が困難であったため、今までは、主に遠方目視による点検を行っていました。

今後は、第三者への被害防止の更なる向上を図るため、鉄道事業者との協議(年次点検計画、年次修繕計画等)を定期的に行い、近接目視による点検や必要な修繕を計画的に実施していきます。

鉄道跨線橋

※島根県が構築したシステムで、県と市町村が共同利用。システムの維持保存は(公財)島根県建設技術センターに委託。

山のみち地域づくり計画における林道「笹山山入線」の状況

益田県土整備事務所　治山・林道課

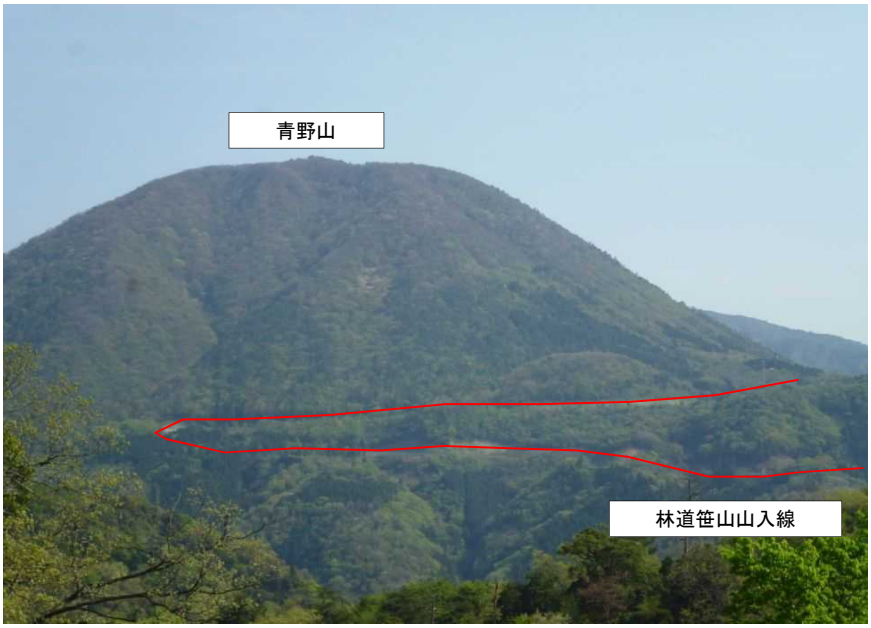
鹿足郡津和野町笹山から田二穂に位置する「笹山山入線」は、昭和４８年度に採択された大規模林業圏開発林道の山陰ルート「波佐・阿武線」の一部として平成９年度より事業着手し、森林開発公団から緑資源機構を経て、平成２０年度より島根県が総延長１０，３００ｍの内、２，７８１ｍの残区間を引き継ぎ開設しています。

山のみち地域づくり計画においては、適切な森林整備の実施や効率的な木材生産活動を推進することにより、林業等による地域振興を図り、併せて地域住民の生活環境の改善や他地域からの交流人口を増加するために基幹的な林道を整備することとしています。この路線は、森林を健全に手入れしていくためのネットワークを形成する骨格的な路網として位置付けられ、林産物の物流路や山村地域の生活道路、森林レクリエーションのアクセス道としての活用が期待されています。

笹山山入線は、県立自然公園の青野山の山麓から、城下町津和野の中心部を外周する形で萩市方面へ向かう県道へと続いています。津和野町においては、平成２３年度より「山の宝でもう一杯プロジェクト」と称し、間伐残材の出荷を促し、地域通貨を発行・使用することによる地域おこしの取り組みも行われ、林業振興が積極的に行われています。一方、観光面では１年を通して青野山には毎年多くの登山者が訪れています。

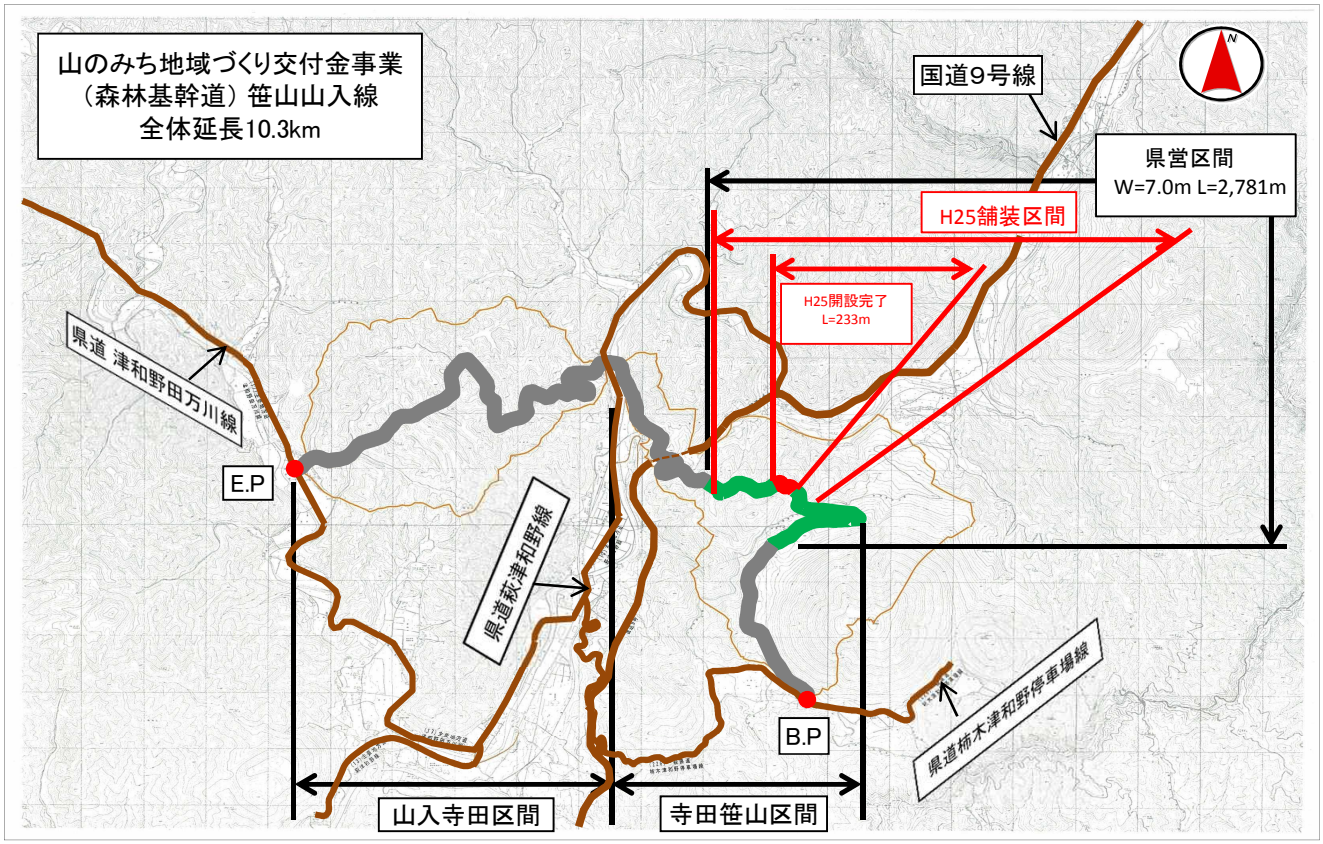
総延長１０，３００ｍの内、１０，０６７ｍの区間が完了し、この程、最後の２３３ｍの開設工事（Ｈ２４からの繰越工事）が完了しました。平成２５年度予算にて法面工事、舗装工事を実施して全線が完成する予定となっています。

皆様のご協力により開通することとなり、関係者の皆様に感謝すると共に今後、この林道が有効に活用され、林業の振興や生活環境改善に資するよう期待されています。



林道笹山山入線の遠景

林道笹山山入線は、城下町津和野からの眺望景観を損なわないようなルート選定がなされている。また、県立自然公園の青野山において開設していることから、生態系に配慮しながら工事を行ってきている。これまでには十分な検討がなされてきた経緯がある。



今年度開設工事を完了した区間

昨年度からの繰越工事である開設工事がこのほど完了し、残りの法面工、舗装等を行い今年度中に全線が完成する予定である。

既に供用済の「山入寺田区間」

森林整備や木材生産活動において利用するのはもちろんのこと、生活用道路としても利用でき、地域住民の生活環境の改善にも寄与している。

別名「あじさいロード」と名付けられるように、沿道には沢山のあじさいが植えられている。梅雨時期には綺麗な花が見ごろとなる。